

ー平成 27 年度がん診療連携拠点病院の PDCA サイクルの実施状況 ー

平成 27 年度については、相談支援センターにおける PDCA サイクルの確保について、情報共有等を行いました。

佐賀県がん診療連携協議会（平成 27 年 12 月 14 日）

議題（1）PDCA サイクルについて

概要：（議事録抜粋）

佐賀大学の木村委員から、PDCA サイクルの確保については、

都道府県がん拠点病院及び地域がん拠点病院の要件として、

何か明文化したもので作成することが求められている。

今年度佐賀県では「相談支援」の PDCA サイクルについて共有等を行う旨説明があった。

各病院から、相談支援の目標設定や取組、その評価や今後の改善点などが報告され、

佐賀県のがん診療連携拠点病院間における PDCA サイクルの確保の取組として、

佐賀県がん診療連携協議会で承認された。

平成27年度PDCAサイクル評価表(相談支援部門)

施設	ビジョン	項目	Plan(計画)	Do(実施・実行)	Check(点検・評価)	Action(処置・改善)
佐賀大学医学部附属病院	佐賀県内のがん患者・家族に対し切れ目ない相談支援・情報提供が行われる体制を整備する。	相談対応	院外からの相談件数を増加させる。	院内掲示、ホームページ上での広報活動を行った。	H26年度の自院患者からの相談は1689件(対面931件、電話758件)、自院外からの相談は29件(対面5件、電話24件)。	県内のがん診療に携わる医療機関との意見交換の場を設け、広報の機会を設ける。(案)
		希少がん	H26年9月より施設別症例数検索システムの活用で希少がんの症例を検索できるようにするための活用を図っていく。	がん診療連携拠点病院の広報誌、ホームページを使って広報を行った。地域拠点病院も含めた相談支援センター連絡会で報告し、周知を行った。	他の相談支援センターからの相談も含め、実績件数は0件。	県内のがん診療に携わる医療機関との意見交換の場を設け、広報の機会を設ける。(案)
		フィードバック	相談者からのフィードバックを受けてよりよい支援につなげていく。	フィードバックシートを相談支援センターのリーフレットとともに設置配布した。それを見て相談に来られた方から投函してもらった意見箱を設置した。	リーフレットは約80枚持ち帰られているが意見箱へ投函された用紙は0枚であった。	現時点で回収できていないため、直接お渡しすることを検討しているが意見箱へ投函された用紙は0枚であった。
佐賀県医療センター 好生館	介護・福祉分野との連携強化で、がん患者及び家族のシームレスケアを実現できる相談体制を構築する。 ～医療機関以外の支援機関を抽出し、有効な連携関係を構築する～	多職種連携	研修会・連絡会の定期開催	緩和ケア症例検討会に地域多職種(介護分野も含め)1回/月で実施する	緩和ケア症例検討会の開催が計画通りに実行できた。	開催準備に負担過重もあり、開催頻度を隔月として、質の充実をはかる
		がん相談支援センター間の連携(県内)(他県)	(県内)集合場面の設定(県外)県外講師かかわりの研修強化	(県内)年間計画立案と予算化、県内4拠点病院連絡会4回/年 開催の促進 (県外) ・相談支援センター研修会参加の予算化 ・県外ファシリテーター要請について決定権者への適切な説明	(県内) ・情報の共有が可能 ・共通事項の質の均質化が可能 (県外) ・情報の共有が可能 ・共通事項の質の均質化が可能	(県外)コメンタリーが事務局で行ってきたが、来年度の移転時から他拠点病院へ引き継ぎ、質の担保をはかることができる体制が整った。拠点病院外連携機関も交えた連絡会が、持ち回りになってから頓挫している。加速化プランに照らすと、再開の必要あり。1サイクル目の稼働後に評価する。(県外) ・継続することで連携効果の拡大をはかる。(現在4年継続)
		がん相談支援の質の向上のための取組	①研修企画・運営と研修参加 ②牽引者育成	①研修受講、企画運営にかかる予算化を確実に実行 ② ・他県ファシリテーターのシャドウイングやセッションの場を設ける。スーパービジョンを実施する。 ・指導者研修への参加を複数名にする	①緩和ケア研修会の開催が予定通りにできた。研修会の参加は、延べ7回参加が叶った。 ②他県ファシリテーターからの助言場面を設けることができた。指導者研修の複数名参加が叶った。	①緩和ケア症例検討会の毎月の開催で企画・運営を学ぶことができた。継続し、コアとなって動くメンバーの世代交代を行う。②がん相談としての院内エデュケーションは、ケース対応で学んでいく必要があるが、時間の確保が課題である。
		患者会へむけてのがん相談支援センターPRと協働	・患者会宛、ポスター、チラシ、ハンドブックの送付 ・県民公開講座の案内 ・症例検討会のパネル－依頼 ・当館実施のなごみの会との交流	ポスター・チラシハンドブックの送付完了 ・県民公開講座の案内と面談実施 ・症例検討会のパネル－発表実現 ・喉友会、乳がん患者会「あじさい」「コスモスの会」会員が、なごみの会に参加し、交流が実現した。	・H26年度計画のすべてを実施完了したことで今後の連携強化がかなった ・なごみの会参加者の自主的な活動を支援する体制への移行期にさしかかった。	・協働することでの相談者支援で効率化をはかる(患者会との連携は、相互の補完的な目的ではない。役割が違うことの明確化を行ったうえで協働で実現する) ・なごみの会参加者から希望のあった、「患者会新聞の作成」で自主性を尊重し、見守っていく。
		☆患者を個別化したうえでの情報提供の充実・促進(図書館分室との連携)	・分室配置しているがん相談支援PC活用や、本の検索を契機にした相談対応への展開をはかる。	・図書館分室書庫との連携 ・所轄課との連携 ・図書館分室課長とのミーティングの実施 ・健康増進課、図書館分室、がん相談支援センターでの三者協議の実施 ・ハンドブックの共有と配布促進 ・相互のホームページやブログの活用	・H26年度計画のすべてを実施完了したことで今後の連携強化がかなった。	・協働することでのがん相談者支援でがん患者対応をはかることができた。 ・合同研修の開催で、がん患者支援の理解促進をはかることが課題。
嬉野医療センター	佐賀県内のがん患者・家族に対し切れ目ない相談支援・情報提供が行われる体制を整備する。特に南部医療圏における当院がん相談支援センター周知と利用の促進を目指す。	がん相談支援センター周知の強化:冊子を活用した情報提供体制の整備	・図書コーナーを整備し、情報提供の設備的な部分の強化を行う。	・国立がん研究センター発行の小冊子をはじめとして、定期購読の「がんサポート」といった冊子を準備し、コーナーを整備した。	・院内院外問わず、立ち止まり立ち読みをされる方の姿が見られ、冊子をきっかけにして、がん相談支援センターに来られる方もあった。 ・冊子コーナー設置は実現できたが、在庫管理の不十分さ、注文書籍の未達などがあり、整備としては不十分。	・冊子コーナーは有効な情報提供コーナーであり、今後は在庫管理に関して他施設での現状など参考にしながら、改善をし、対象者がより情報にアクセスしやすい環境を整える。
		がん相談支援センター周知の強化:参画を通じた情報発信体制の強化	・院外への情報発信を行い、がん相談支援センターが嬉野医療センターにもある事の周知を図る。 ・自院ホームページじょうで広報活動を行った。	・リレーフォーライフ佐賀において、ポスター展示およびリレーフォーライフへの参加を行った。 ・第3回全国健康都市めぐり嬉野市において、ポスター展示を行った。	・院内院外問わず「嬉野医療センター」にがん相談支援センターがあると知って電話しましたと来訪や電話をもらう事が見られるようになった。 ・しかし、広報関連の効果としては、まだまだ、小さいと思われる。	・機会を見つけて、広報を行い、「がん相談支援センターが嬉野にもある」と広めていく活動を継続する。 ・平成28年度もリレーフォーライフ佐賀への参加を行い広報活動を行う。 ・病院主催の市民公開講座にて、広報が出来ないか提案を行っている。
唐津赤十字病院	佐賀県内のがん患者・家族に対し切れ目ない相談支援・情報提供が行われる体制を整備する	広報	がん相談支援センター(相談窓口)の周知を図る。	院内 ・がん相談支援センターのポスターを作り直した。 院外 ・地元の情報番組に出演し、がん相談支援センターの活用について紹介した。	相談件数の変化は無く、院内外広報の効果があったとはいえない。	・がん相談支援センターの業務内容について院内周知を図る。 ・院外関係機関にもポスターを配置する。
		患者会	患者同士の交流の機会を作り、学びの場とする。	毎月患者会を開催することができた。 院内外の講師を迎え、アピランスケアなどの勉強会を年に6回行った。他の回では、座談会や患者会で作るほほえみガーデンの手入れを行った。	毎月10名程の参加がある。勉強会は好評が多く、学びの場になっており、座談会などで患者同士の交流を図ることも出来ている。	患者の意見を取り入れながら、継続して開催していく。